

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

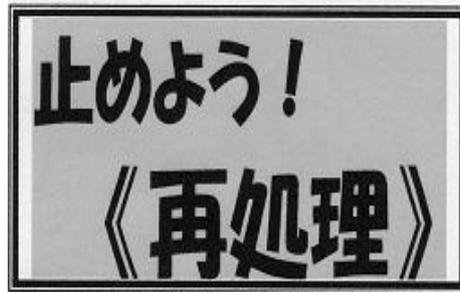
郵便振替 02240-5-102650

《再処理／岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2009(平成21)年

9月 17日

第76号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

原燃発表「アクティブ試験終了は来年10月までに延期」

放射能まみれのガラス固化セル

溶融炉再開は本当に出来るのか

安全第一、再処理から撤退を

心配される作業員の被曝



日本原燃は八月三十一日、再処理工場のアクティブ試験の終了(竣工)を来年の十月まで延期すると発表しました。

再処理工場では高レベル放射性廃液がガラス固化セル内に漏れいする事故が本年一月におきましたが、遠隔操作機器の不具合もおり、洗浄作業も出来ない状況です。セル内洗浄、機器点検、炉内レンガ回収、さらに炉内残留ガラス除去など、溶融炉運転再開までの作業計画が示されていますが、実現する保障はなく、下請け作業員の被ばくが懸念されます。全国紙では、再処理計画そのものを練り直すときとする社説も掲載されました。「止めよう！再処理」の声が全国にさらに高まってきました。

作業計画は 実現出来るのか

発表された計画書では十段階の作業日程が示されています。それによると

十二月めに、セル内洗浄、機器点検、炉内熱上げレンガ回収、ガラス抜き出し・放冷、
来年七月めに、セル内機器点検、溶融炉残留物除去、機器再点検
来年十月めに、再熱上げ、ガラス固化試験、報告書点検
とされています。

汚染セル内の洗浄は 出来るのか

まず、高レベル放射性廃液が漏れいして停止状態にあるガラス固化セル内の洗浄作業をどのようにして再開するのでしょうか？

二月から五月にかけてクレーンに取り付けたカメラを見ながらパワーミニピュレータという遠隔操作機械を使い加圧水で洗浄していましたが、ミニピュレータの動きが悪くなり、作業員が接近して修理、被ばくしました。そのほ

かにも昇降用チェーンがさびたり、カメラの電線のつなぎに不良が生じたりで、停止状態が続いています。ミニピュレータは一台のみで、予備はないと言われます。

放射線と硝酸で 電気ケーブルが劣化

洗浄作業が終わったとしても、炉の熱上げをするための電流を通す前に約四〇〇機器のうち約二二〇機器について点検し、修理・取り替えを行わなければならないと言います。高レベル廃液が回収されないまま、電気ケーブルの接合部や絶縁被覆に染みこんでいけば、その強い放射線と硝酸の作用によって、機材を腐食させ、劣化させている可能性が高いからです。強い放射線で人間が近づけない場所ので二二〇箇所もの作業をどのようにに確実に行うのでしょうか。

絶縁不良での通電は 危険

この点検・取り替え作業が確実に行われないまま、絶縁不良の回路に電気を通せば当然、漏電の危険があります。漏電は、

思わぬ場所に熱を発生させ火災の危険をもたらします。

再処理工場内には「セル」に近接して、約二四〇立方メートルもの高レベル放射性廃液を溜めたタンクがあります。超危険な放射性廃液の沸騰を防ぐため、電気によりたえず冷却し、発生する水素を除去しなければなりません。したがって常に電源の確保が必要で、間違っても「電源喪失事故」を起こしてはなりません。「ガラス固化セル」での電気系統の不具合は見過ぎすことの出来ない重大な問題です。

天井レンガが破損したままの溶融炉を使用できるのか
未だ洗浄作業さえ見通しが立たないのに、十二月までに、炉内落下レン

ガの回収を行う計画というのは、実現性のない願望と言えるでしょう。万一、確実に点検・取り替え作業がなされ炉内熱上げが出来たととしても、「レンガ落下の原因」が究明されないまま、次の作業に入れば、さらにまた大きな危険と直面することになります。何故、レンガが剥落し落下したのでしょうか。その原因として、専門家の中からは「化学試験以来の急激な温度変化により、炉に亀裂が入ったためではないか」という疑念が出されています。

その疑念がもし真実であるならば、それを解決しないうちに炉を高温にするという事は、炉内の破損耐熱レンガ周辺からさらに亀裂が大きくなり、「炉の崩壊」という事

態さえ予想しなければなりません。天井レンガが落下したこの炉は炉内レンガを取り替えない限りもう使用してはいけな危険炉と言えます。

溶融炉欠陥克服 現在の技術では無理

日本の再処理工場の採用したガラス固化炉(LFCM方式)注)は日本独自の技術と言われますが、使用済み燃料の中に入っている白金族元素が邪魔をして電気を短絡させ温度が思うように上がらないことがこれまでの試験で課題になってきました。

この問題は現在の技術では解決できないことが明らかになりました。このまま無理に試験を続けると思わぬトラブルや取り返しのつかない事故の可能性があります。しかも私達の電気料金の無駄遣いです。一刻も早く試験を中止し安全な撤退を図るべきです。

注) LFCM方式 炉を暖めるのに電極を用いて通電しガラスを溶融させる方式。フランスやイギリスは、電子レンジのように高周波誘導加熱のAVM方式。

朝日新聞の社説(九月七日)
「核燃サイクル・練り直す時ではないか」
変わり始めたマスコミ論調

朝日新聞の社説の内容は以下の通りです。

【社説の要旨】

再処理工場は来年十月まで試運転終了を延ばした。再処理は自民党政権がめざした核燃サイクル政策に欠かせず、二兆一九三〇億円をかけて私達の電気料金で支えられた。今回の延期はトラブル解消の困難を物語る。来年中の本格操業も不透明である。

今のうちに考えるべきことは多い。再処理を資源有効活用だとして進めるべきとする従来の立場で良いのか、トラブル続出で撤退するべきだという声は強まるだろうし、あわてる必要もないという声もある。プルトニウムの在庫が増えるからだ。

また、国際社会ではプルトニウムは核兵器の原料になるので「核不拡散のために再処理を多国籍の管理下に置いた方がために再処理を多国籍の管理下に置いた方が

よい」という考えもある。こうした状況を踏まえ、新政権は再処理を自前のものと主張するのか、多国籍管理の一翼を担わせるのか、あるいは思い切つて操業を凍結させるのか。この一年間の空白期間を利用して幅広く一般の人々や専門家の意見を聴く場を設けてはどうか。

ただ、全国原発から毎年出る一トンの使用済み燃料の貯蔵プールが満タンになりそうである。原子力政策の難題は待ったなしである。

00000

この論説について次の二人から感想が編集部に寄せられました。

永田文夫さん

(岩手の会世話人)

社説では私達の署名運動と同調する「操業凍結」という言葉も出て来ており、また、「意見を聴く場」を提案しています。

今まで自己規制して来たマスコミ大手がこのような踏み込んだ社説を発表したことは希望が湧き、大いに歓迎出来ます。

高橋盛佳さん

(滝沢村議会議員)

社説を少なからずの驚きと感動を持って読みました。時代はちゃんと動いてきたという実感です。民主党政権に期待する大事なことの一つは情報公開です。かつてのようなイデオロギー過剰な政治論争ではなく、事実即ち、常識の積み重ねによる大衆的な政治論争が必要だ。そうした訓練があまりに不足していました。新政権に皆が意見を寄せ、納得がいく道筋を探るべきです。

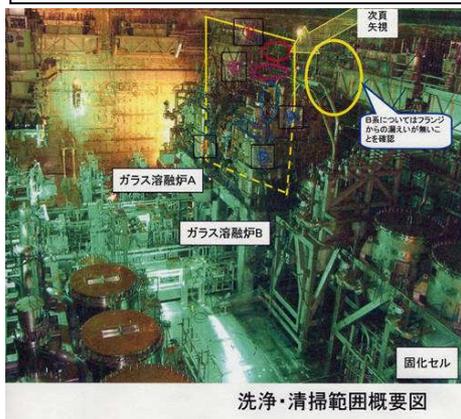
再処理工場の稼働凍結を求める署名運動

岩手の会の街頭行動

九月十九日(土)
午後二時から
盛岡市大通
産ビル前

みんなで取り組もう

人間が近づけない固化セル内 どのようにして 220箇所の部品 点検・交換作業を行うのか?



洗浄・清掃範囲概要図